MITSUBISHI

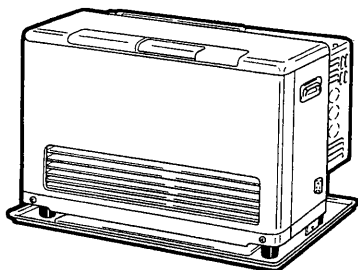
別冊「安全のために
必ずお守りください」
を必ずお読みください

三菱〈密閉式石油ストーブ〉クリーンヒーター

形　名

VKB-601C-C
VKB-451C-C
（集中管理システム用）

取扱説明書

お客さま用

このたびは三菱クリーンヒーターをお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

この説明書は保証書と共に保存のうえ、ご使用中にわからないことや不具合が生じたとき、お役だてください。

三菱クリーンヒーターを廃棄処分される場合は、本体内の灯油を抜きとってから行ってください。

もくじ

9810R588HD4402

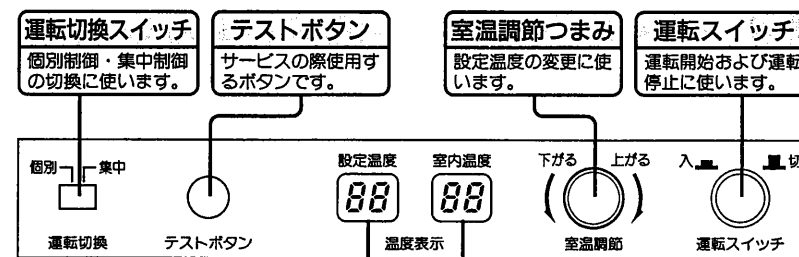
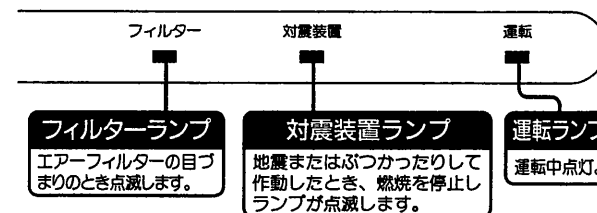
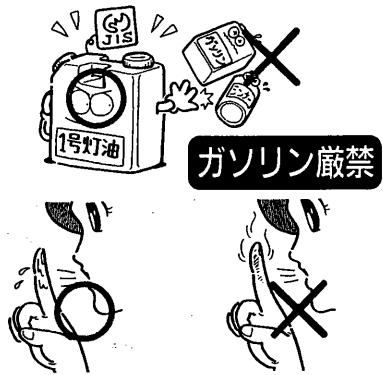
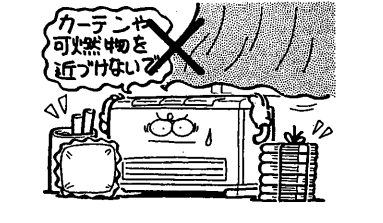
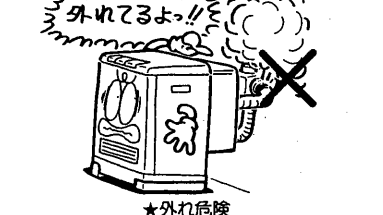
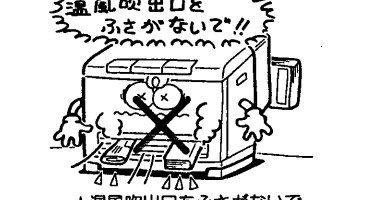
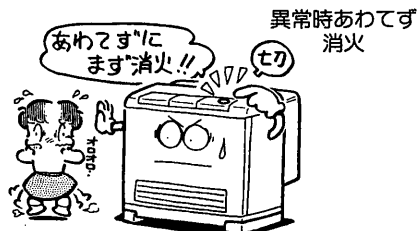
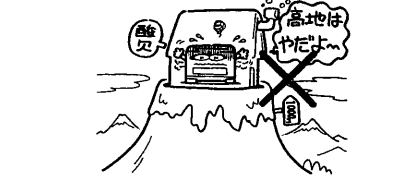
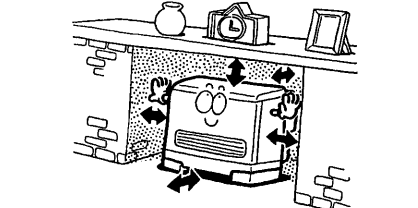
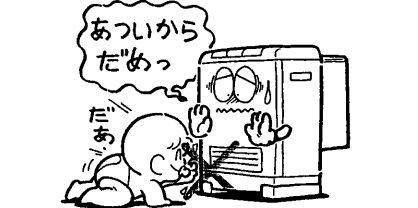
各部の名称

■外観図

〈正　面〉

〈背　面〉

操作部

■運転するときは操作パネルをカギで開けて操作してください。

ご注意！

- 集中管理で運転するときは運転スイッチを常に「入」にしてください。
- 集中管理で運転しているときに異常が発生した場合、親機で運転を停止させますので、表示部には異常表示されません。

特に注意していただきたいこと

ストーブの使用・灯油の取扱いで次の点は特に注意してください。

● 間違った使いかたをしますとストーブが故障したり、排ガスが室内に漏れたり、また火災や、やけどの危険がありますので、次の注意をよく守ってください。

★灯油はぬれたままです。 ★ガソリンはすぐに乾きます。

★カーテン、可燃物注意

★外れ危険

★温風吹出口をふさがないで

1

灯油（JIS 1号灯油）を必ず使用してください。ガソリンなど、揮発性の高い油は火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。

灯油とガソリンの見分けかた

- 指先につけ、息をふきかけます。
- 確認は火の気のないところで行ってください。

2

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは、使用しないでください。また洗たく物の乾燥に使用しないでください。

- 火災の原因になります。またカーテン・洗たく物が変色したりストーブが変形することがあります。

3

給排気筒（管、ホース）が正しく接続されているか確認してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れ、一酸化炭素中毒のおそれがあり、大変危険です。

4

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。

- 衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。

5

異常時あわてず消火

万一異常を感じたり緊急の場合はあわてずに消火してください。

運転スイッチを「切」にしてください。

使用場所 安全に使用するために

1 特殊な場所は避ける

ストーブは居室の暖房用としてつくられたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。
また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。

- 化学薬品などの影響により不完全燃焼や故障の原因になります。

2 高地での使用について

標高1500m以上の場所では使用できません。

- 空気不足により不完全燃焼の原因になります。

3 マントルピース内据付けについて

マントルピース内とストーブとの距離を確保してください。

- 詳しくは、同梱の工事説明書で確認してください。

使用上の注意

1 やけどに注意

運転中、温風吹出口は高温になりますので、触らないでください。
特にお子さまをストーブに近づけないでください。

- グリルガード（システム部材）のご使用をおすすめします。

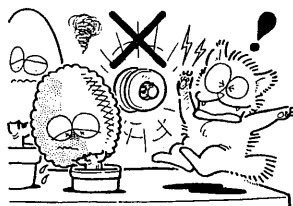
特に注意していただきたいこと つづき

使用上の注意

2 危険物は避けて

ストーブや給排気筒トップの周囲には危険物（ガソリン・シンナーなど引火しやすいもの）が絶対にないようにしてください。

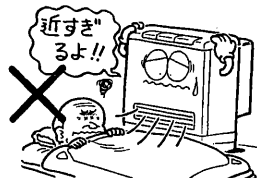
- ●火災や部品の劣化の原因となります。

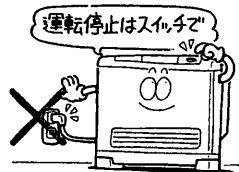
スプレー缶を温風のあたるところに放置しないでください。爆発し、危険です。

3 給排気筒トップに注意

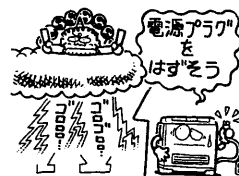
- ●給排気筒トップは高温です。やけどに注意してください。
- ●排ガスが出ますので、愛がん動物・植木なども置かないようにしてください。事故がおこったり、木が枯れたりする原因になります。

●排ガスは必ず屋外に出してください。

4 ストーブの上に腰かけたりものをのせないで

- ●やけどやけがをしたり、ストーブの変形や給排気筒トップが外れ危険です。

5 温風を長時間、直接身体にあてない

- ●脱水状態になったり、低温やけどの原因になります。特に、体力のない病人・乳幼児・お年寄りには、まわりの人が注意してあげてください。

6 運転停止は電源プラグを抜いたり、元電源（ブレーカー）を切ったりしないで

- ●ストーブが故障する原因になります。

7 雷時の注意

雷が接近したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

- ●激しい雷の影響でストーブが故障するおそれがあります。

使用前の準備

燃　料

●燃料は必ず、（JIS１号灯油）を使用してください。

●変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。
点火、消火しにくくなったり、燃焼が悪くなって安全装置が作動したり、製品の寿命を縮めます。

変質灯油とは…

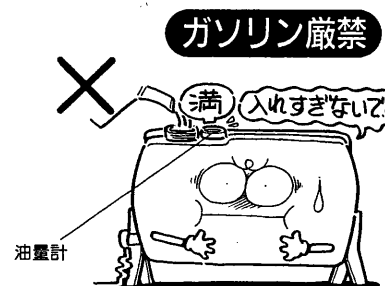
特にポリ容器で日光のあたる場所で保管すると変質しやすくなります。
例えば、このような場合は注意してください。

- ●昨シーズンより持ち越した灯油。
- ●次のような条件で長期間保管した灯油。
  - ★日光のあたるベランダなどの場所。
  - ★風呂場横などの温度の高いところ。
  - ★容器のふたを開けておいた灯油。

汚れた灯油とは…

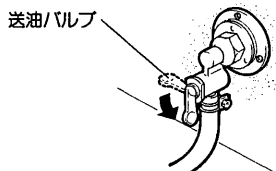
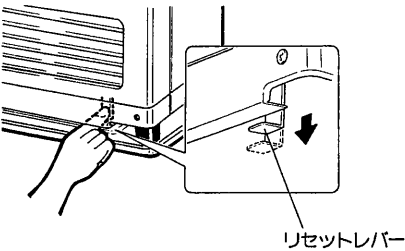
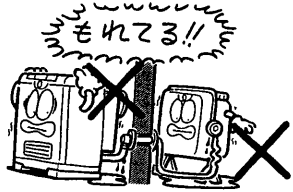
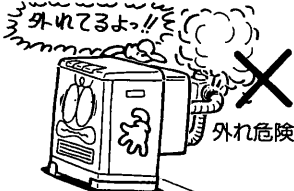
- ●灯油以外の油（天ぷら油・機械油・ガソリン・シンナーなど）が、ほんのわずかでも混入した灯油。（灯油以外のものを入れた空き缶を使用しないでください。）
- ●水やごみが混入した灯油（※ポリ容器にいれて雨ざらしにしておいたり、ふたを開けておいた灯油。）
- ●添加物を入れた灯油（添加物・助燃剤などを灯油に混ぜて使用しないでください。）

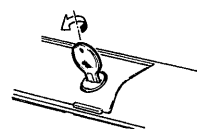
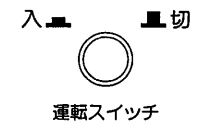
給　油

1 給油の手順と注意

●油量計の表示が「満」の印以上には絶対に入れないでください。

1. 油タンクに給油します。
   ①油タンクの給油口ふたを外します。
   ②給油口に付いている「ろ網」の上からこぼさないように入れます。
2. 給油口ふたを確実に閉めます。
3. こぼれた灯油はよくふきとります。

ご注意！

- ●給油するとき、ごみなどが入らないように注意してください。（燃焼不良の原因になります。）

2 油タンクは空にしないでください。

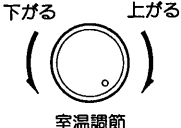
- ●油タンクの油量計の表示が「空」になるまで燃焼させると異常燃焼などして、すすが発生し、故障の原因になります。

運転開始前の準備と確認

1		油タンクに給油した後、油タンク及び給油アタッチメントの送油バルブを「開」にします。
2		**定油面器のセット** 定油面器のリセットレバーを下へ1回下げます。リセットレバーが元の位置に戻っているか確認します。 ●運転開始するたびにセットする必要はありませんが、シーズン初め、ストーブ設置場所の変更、または対震自動消火装置が作動した後で再運転するときは、リセットレバーをもう一度、下げます。
3		**電源プラグをコンセントに差込みます。**
4		**油漏れの確認** ゴム製送油管やストーブの置台に油漏れがないか確かめてください。 万一、油漏れしている場合は必ずお買い求めの販売店に修理依頼、または最寄りの三菱電機お客さま相談窓口にご相談ください。
5		**給気ホース・排気筒接続の確認** ●給気ホース・排気筒が正しく接続されているか確認してください。 外れていると運転中に排ガスが漏れ大変危険です。
6		**ストーブ周辺の確認** ストーブの周辺および給排気筒トップの周囲に引火物や可燃物を置かないでください。

使用方法

このクリーンヒーターは個別運転と集中管理システム運転ができます。

運転開始 (個別運転のしかた)

	操作部	手順
1		カギを使い操作パネルを開けます。
2	個別 集中 運転切換	運転切換スイッチを「個別」にします。
3	入 切 運転スイッチ	運転スイッチを「入」にします。 (運転ランプ点灯)

やがて温風が吹出します。

運転中の注意

- 着火時にボッボッと音をたてて燃焼することがありますが、故障ではありません。
- 着火時・消火時にピシッピシッという音がしますが、燃焼器の熱伸縮音ですので異常ではありません。
- 室内温度表示は「6」〜「32」の範囲で表示されます。ただし、室内温度が6℃未満のときは「L」、32℃を越えるときは「H」が表示されます。
- 停電があった後は表示部に「E-00」が表示されます。運転スイッチを押しなおしてください。
- 室内温度表示が設定温度より高いときは燃焼しないことがあります。

室温の調節

	操作部	手順
1	下がる 上がる 室温調節	室温調節ツマミを回してお好みの設定温度を表示させます。

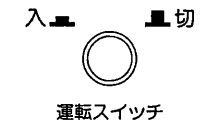
室温調節時の注意

●温度調節は一度セットすれば記憶していますが、電源プラグをコンセントから抜いたときや停電のときは再度室温調節をやりなおしてください。
●室内温度表示の数字は設置条件などにより必ずしも室内温度と一致しません。室内温度の目安としてください。

運転停止（個別運転のしかた）

	操作部	手順
1	入 切 運転スイッチ	運転スイッチを「切」にします。（運転ランプ消灯）

停止するときの注意

●長期間留守にするときは、必ず電源を切ってください。電源プラグは送風が停止してから抜いてください。
●電源プラグをコンセントから抜いて運転を停止しないでください。ストーブが過熱し故障の原因となります。
●お出かけになるときは必ず消火してください。運転スイッチを「切」にしてください。

使用上の注意

①排気筒、給排気筒トップに注意
排気筒、給排気筒トップは高温です。やけどに注意してください。
●お子さまが排気筒、給排気筒トップのそばへ近づかないよう注意してください。触れる恐れのある場合は当社システム部材のトップガード・配管カバーをご使用ください。
②ストーブや排気筒には床暖用の熱交換器などを取付けないでください。
●ストーブや排気筒に熱交換器などを取付けると排ガスの水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して排気筒をふさぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。また、ストーブの寿命を短くする原因にもなります。

集中管理運転のしかた

集中管理システムの親機・子機と週間プログラムタイマーを組合わせることによって集中管理システム運転ができます。
クリーンヒーターは以下のようにセットしておく必要があります。

	操作部	手順
1	個別 集中 運転切換	カギを使い操作パネルを開けます。運転切換スイッチを「集中」にします。
2	入 切 運転スイッチ	運転スイッチを「入」にします。操作パネルを閉めカギをかけます。

以下の操作は、システム部材の取扱説明書に従って行ってください。

安全装置

対震自動消火装置

●使用中、強い地震・衝撃を受けたときは、すぐに自動消火し、「対震装置」ランプが点滅します。

過熱防止装置

●使用中、エアーフィルターにほこりがつまり、温風の量が少なくなって、ストーブ内部が過熱しかけると「フィルター」ランプが点滅します。さらに温度が高くなると過熱防止装置が働き運転を停止します。このような場合にはエアーフィルターの清掃（12ページ参照）を行ってください。〈清掃を行う場合は、運転スイッチを「切」にしてから行ってください。運転スイッチを「切」にしないで清掃を行うとランプの点滅は解除されません。〉
●温風吹出口がふさがれるなど、ストーブ内の温度が高くなった場合には、過熱防止装置（オートカット）が作動し運転を停止します。

点火安全装置・燃焼制御装置

●点火不良、燃焼不良、燃料切れなどのとき、安全装置が働き運転を停止します。

停電安全装置

●運転中に停電したときは自動的に運転を停止します。

●上記の安全装置が作動したときは15ページを参照し、処置してください。

その他の装置

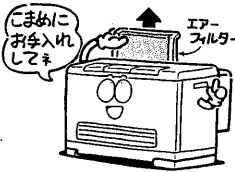
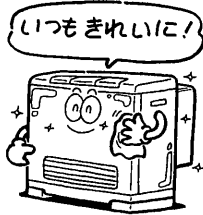
異常過熱防止装置

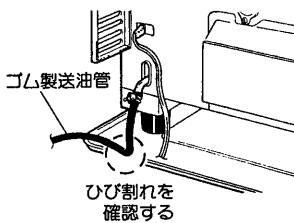
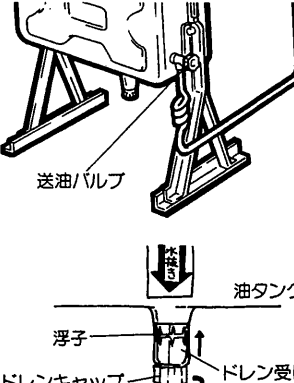
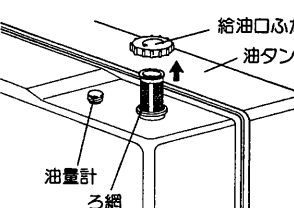
●過熱防止装置が作動せずさらにストーブ内の温度が異常に高くなった場合は、異常過熱防止装置（温度ヒューズ）が作動し、運転を停止します。

異常着火検知装置

●異常に大きな音をたてて着火した場合は、安全装置が働き運転を停止します。

排気筒外れ検知装置

●排気筒の接続部が外れると運転を停止し、表示部の異常表示モニターがE-09を表示します。

●上記の「その他の装置」が作動したときは使用を中止し、お買い求めの販売店へご連絡ください。
●集中管理で運転しているとき異常が発生した場合、親機で運転を停止させますので表示部の異常表示はされません。

日常の点検・手入れ

点検・手入れのときの注意

●必ず運転スイッチを「切」にして、ストーブの運転を停止し、ストーブが冷えた状態で行ってください。

点検・手入れの必要項目、時期、方法

時期	点検・手入れ項目	方法
シーズンはじめ	給気ホース 排気筒	エアーフィルターをとり、背面カバー上板を外して、給気ホース・排気筒の接続箇所が外れていないか確認します。
	給排気筒トップ	室外の給排気筒トップ先端がくもの巣やビニール袋などでふさがれていないか点検します。
	定油面器リセット	リセットレバーを下げます。
使用のたび	排ガス	排ガスのにおいや、目がチカチカしないか点検します。排ガスが漏れていると一酸化炭素中毒のおそれがあり非常に危険です。
	油漏れ・油のたまり・油のにじみ	ゴム製送油管や置台に油漏れ、油だまり、油のにじみがないか点検します。
	周囲の可燃物・引火物	ストーブの上や周囲・給排気筒トップの周囲に可燃物、引火物がないか点検します。
1週間に1回以上	エアーフィルター	エアーフィルターを右図のように取外し、掃除機などでほこりを取除きます。●温風吹出口から風が出ていないのを確認してから行ってください。送風中に行うとストーブ内部にほこりが入ることがあります。
1ヵ月に1回以上	ストーブ外観	ストーブ・置台・温風吹出口などの汚れは乾いたやわらかい布などできれいにふきとります。また、前パネルの汚れは中性洗剤などでふいてください。●シンナー・アルコール・ベンジンなどをお手入れに使用しないでください。

日常の点検・手入れ つづき

時期	点検・手入れ項目	方法
1シーズンに2〜3回	ゴム製送油管	ゴム製送油管にひび割れが生じていないか点検します。 ゴム製送油管は経年劣化しますので3年に1度新しいホースに交換してください。 交換はお買い求めの販売店または最寄りの三菱電機お客さま相談窓口でご相談ください。 （図：ゴム製送油管／ひび割れを確認する）
	油タンクの水抜き	油タンク内に水が入りますとドレン受け内の浮子が浮き上がりますので水抜きをします。 ①送油バルブを「止」にします。 ②ドレン受けの下に4ℓ以上の容器を置き、ドレンキャップをゆるめ水抜きをします。 ●ドレンキャップは取外さないでください。 ③水抜きが終わりましたらドレンキャップを元通り締付けます。 ④浮子が沈んでいるのを確認します。 ⑤送油バルブを開きます。 （図：送油バルブ／油タンク／浮子／ドレン受け／ドレンキャップ）
	給油口ろ網	「給油口ろ網」をタンクの給油口から取出して、きれいな灯油ですすぎ洗いをし、必ず元通り取付けます。 （水では洗わないでください。） （図：給油口ふた／油タンク／油量計／ろ網）

定期点検

三菱密閉式石油ストーブ「クリーンヒーター」は使用される場所や条件、また使用時間により消耗・劣化する部品がありますので、専門技術者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL03-3499-2930)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)または技術講習会修了者(点検整備士)〕のいる店などで定期点検を受けてください。

定期点検の実施時期

2シーズン毎に1回程度定期点検を受けてください。
ただし、湿度の高いところ、ほこりの多いところ(例えば、厨房室や製綿工場など)、温泉地域などでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますのでお買い求めになった販売店にご相談ください。

★定期点検
定期点検は専門の技術者が、設置状態、給排気まわりの点検・安全装置及び運転動作の点検・確認、使用時間により消耗劣化しやすい部品の点検等を行います。
安全にお使いいただくために製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。

★お申し込み先
お客さま→お買い求めになった販売店、または最寄りの三菱電機サービスセンター

★定期点検費用
定期点検の費用についてはお買い求めの販売店にご相談ください。
定期点検の結果、部品交換及び修理等が必要な場合は、処置内容及び費用についてお客さまにご相談申しあげます。

定期点検の内容

	定期点検の内容	項目	
1	設置状態、給排気まわりの点検・確認	●製品の設置・使用状態 ●給排気筒の接続とつまり	●送油経路部の油漏れ ●給排気筒トップのつまり
2	安全装置、及び運転動作の点検・確認	●安全装置の働き ●操作部品や動く部品の働き	●運転動作の点検
3	環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	●給排気系部品、電気接点部品などの点検 ●点火電極、炎検知器などの点検 （劣化の状態により交換の場合もあります）	
4	製品の清掃・整備	●本体内 ●温風吹出口	●油タンクの水抜き

地震などの災害が発生したときの点検について

★地震などにより製品に振動、衝撃が加わったときは、運転をする前に必ず次の点検を実施してください。
点検内容
●給排気回りの外れ、漏れの確認　●灯油配管からの漏れ確認
★点検で異常がみつかったときや点検したのち使用しているとき排ガスのにおいがしたり、目がチカチカするときは使用を中止して販売店に修理依頼するか、最寄りの三菱電機サービスセンターへ修理依頼してください。

故障・異常の見分けかたと処置方法

異常が生じた場合は、操作パネルをあけますと表示部にエラーモードが表示されますので下表を参照してお客さま自身で処置してください。

集中管理運転の場合に異常が生じたときは、親機で運転を停止させ、表示部には異常表示されませんので運転切換スイッチを個別に切換え、個別運転で現象を確認のうえ下表を参照して処置してください。

	原因＼現象	運転ランプが点灯しない	フィルターランプが点滅する	対震装置ランプが点滅する	表示部にE-00を表示する	表示部にE-01を表示する	処置	参照ページ
1	電源プラグがコンセントから抜けている	●					電源プラグをコンセントに確実に差込む	7
2	停電があった				●		運転スイッチを押しなおす	8
3	油タンクに油がない、または送油バルブが閉っている					●	給油するまたは、送油バルブを開く	7
4	定油面器がセットされていない					●	定油面器をセットする	7
5	油タンクに水が入っている					●	油タンクの水抜きをする	13
6	温風吹出口がしゃ閉されている				●		温風吹出口のしゃ閉物を取除く	3
7	エアーフィルターにほこりがつまっている		●				エアーフィルターを清掃する	12
8	対震自動消火装置が作動した			●			P14「地震などの災害が発生したときの点検について」の点検項目を確認し運転スイッチを押しなおす	8
9	給排気筒トップの先端がふさがっている					●	給排気筒トップ先端のしゃ閉物を取除く	12

以上の方法で点検し、処置をしてもなおらないときは、使用を中止し、お買い求めの販売店に修理依頼、または最寄りの三菱電機お客さま相談窓口へご相談ください。
修理をお申しつけのときには故障の内容をできるだけ詳しく、また表示部に表示されるエラーモード(故障・異常状態)をご連絡ください。

表示部にこんな表示がでたら販売店までご連絡ください

E-02　E-03　E-04　E-05　E-06　E-07
E-08　E-09　E-13　E-14

※表示部にE-06の表示が出たら、電源プラグをコンセントに差込みなおしてください。
※表示部にE-13の表示が出たら、給排気筒トップ、給気口、排気口が異物でふさがれていないか確認してください。異物を取除いて運転スイッチを押しなおしてください。

上記の処置をしてもまだ表示が出る場合はお買い求めの販売店にご連絡ください。

こんな症状のときは使用を中止し販売店にご連絡ください。

使用される場所や条件、または長期間の使用により、下記のような現象が見られる場合には、使用を中止して、必ずお買い求めの販売店に修理依頼、または最寄りの三菱電機お客さま相談窓口へご相談ください。

現象	予測される故障
燃焼確認窓が「すす」で汚れて炎が見えにくい。	燃焼が不完全になっているおそれがあります。
運転開始しなかったり、使用途中で火が消えることがたびたびある。	部品が故障しているおそれがあります。
運転開始時や使用中に「ボーン」という大きな音がする。	異常着火検知装置が作動し、運転を停止します。運転スイッチを「入」にしても再運転できません。機器を損傷したり、部品が故障しているおそれがあります。
排ガスのにおいがしたり、目がチカチカする。	排ガスが漏れているおそれがあります。 ●排ガスが室内に漏れますと、一酸化炭素中毒のおそれがあり非常に危険です。

部品交換のしかた

経年により消耗、劣化しやすい部品があります。
異常かなと思われましたら、お買い求めの販売店、または最寄りの三菱電機お客さま相談窓口にお問い合わせください。
専門技術者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)または技術講習会修了者(点検整備士)〕のいる店などで修理いたします。不完全な修理は危険です。

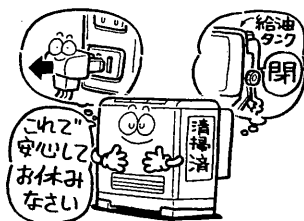
消耗、劣化しやすい部品

項目	内容
使用時間により交換が必要な部品	各種パッキン、排気筒接続用Oリング呼びP34(JIS B2401 4種D)、点火電極、炎検知器(フレームロッド)など
環境により劣化しやすい部品	給排気系部品、電気接点部品など
不良灯油を使用されて劣化しやすい部品	バーナー、電磁ポンプ、燃焼系部品

保管(長期間使用しない場合)

長期間使用しないとき(シーズン終了時)は、次の要領でお手入れしてください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。
2. ストーブ外装、エアーフィルター、温風吹出口の掃除をしてください。(12ページ参照)
3. 油タンクの送油バルブを「止」にしてください。
4. ストーブ内部の清掃は必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
5. ストーブは据付けたまま保管してください。

- どうしても取外して保管するときは湿気やほこりの少ないところに保管してください。
  次シーズンに据付けるときには必ずお買い求めになった販売店に依頼してください。

仕様

形式の呼び		VKB-601C-C		VKB-451C-C	
種類		気化式・強制対流形・強制給排気形			
点火方式		高圧放電点火・自動点火			
燃料		灯油(JIS 1号灯油)			
暖房出力		22600kJ/h(5400kcal/h),6.28kW		17710kJ/h(4230kcal/h),4.92kW	
発熱量および熱効率	最大	23800kJ/h(5685kcal/h) 95%		18630kJ/h(4450kcal/h) 95%	
	最小	11040kJ/h(2640kcal/h) 91%		8620kJ/h(2060kcal/h) 91%	
燃料消費量	最大/最小	0.69/0.32ℓ/h		0.54/0.25ℓ/h	
暖房のめやす	温暖地	木造16畳(26.5㎡)まで	コンクリート22畳(36.5㎡)まで	木造13畳(21.5㎡)まで	コンクリート17畳(28.0㎡)まで
	寒冷地	木造17畳(28.0㎡)まで	コンクリート26畳(43.0㎡)まで	木造13畳(21.5㎡)まで	コンクリート21畳(35.0㎡)まで
外形寸法(置台を含む)		高さ535㎜、幅780㎜、奥行231㎜			
質量		26.5kg		26kg	
電源電圧および周波数		100V 50/60Hz			
定格消費電力	点火時消費電力	545/545W			
	最大消費電力	565/565W			
	燃焼時消費電力	143/141W		80/82W	
給排気筒呼び径		D34			
給排気筒壁貫通部孔径		65㎜			
排気温度		260℃以下			
電流ヒューズ		10A・100V 3A・100V			
温度ヒューズ		192℃		172℃	
安全装置		対震自動消火装置、過熱防止装置、点火安全装置、燃焼制御装置、停電安全装置			
その他の装置		異常過熱防止装置、異常着火検知装置、排気筒外れ検知装置			
付属品		●置台 1個 ●給排気筒トップ取付ネジ 皿ネジ3本 ●室内傾斜フランジ 1個 ●絶縁パイプ 1個 ●室外傾斜フランジ 1個 ●トップフード 1個 ●壁離隔板 1個	●室内傾斜フランジ取付ネジ 木ネジ3本 ●給気ホースバンド 1個 ●コードバンド 2本 ●壁固定部品 2個 ●床固定金具 2個 ●床固定取付ネジ(タッピン4×8) 2本 ●壁離隔板取付ネジ 2本	●固定金具取付ネジ 木ネジ5本 ●固定金具取付びょう(畳用) 2本 ●ゴム製送油管(締付金具2個付) 1本 ●補助パイプ 1本 ●フランジナット 1個 ●C形ストッパー 2個 (1個は給排気筒トップに取付けてあります)	

アフターサービス

保証書(別に添付してあります)

★保証書は販売店から必ずお受けとりください。
★保証書は保証書に記載の条件、期間の無料修理をお約束するものです。
　販売店名、お買い上げ日などの記入をご確認のうえ、大切に保管してください。
★保証期間はお買い上げ日から本体は1年間です。ただし、燃焼器部分は3年間です。

修理を依頼されるとき

取扱説明書の「故障・異常の見分けかたと処置方法」(15ページ参照)に従って調べていただきなおらないときには、次の処置をしてください。

●保証期間中は…

お買い求めの販売店にご連絡ください。保証書の規定に従って販売店が修理致します。

〈連絡していただきたい内容〉
- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品名・形名・お買い上げ日
- 故障または異常の内容
  できるだけ詳しく〔表示部のエラーモード(故障・異常状態)数字など〕お知らせください。
- 訪問ご希望日

●保証期間が過ぎているときは…

お買い求めの販売店または最寄りの三菱電機サービスセンターにご相談ください。

転居や設置場所の変更

増改築や転居・移設などによる取外しおよび再設置は、お買い求めの販売店、または最寄りの三菱電機お客さま相談窓口(連絡先は同梱の一覧表参照。)へご相談ください。
- 転居先の設置条件(設置場所の標高・給排気工事の条件)に合わせて、調節ボリュームをセットする必要があります。ご不明な場合は最寄りの三菱電機サービスセンターにご相談ください。
- 器具を一端外され、再使用されるときは、排気筒接続部のOリング(ゴムパッキン)はすべて交換します。

補修用性能部品の最低保有期間

密閉式石油ストーブの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後7年です。

- この期間は通商産業省の指導によるものです。
- 性能部品とは製品の機能を維持するために必要な部品です。

アフターサービスなどについて、おわかりにならないとき

お買い求めの販売店、または最寄りの三菱電機お客さま相談窓口(連絡先は同梱の一覧表をご覧ください。)にお問い合わせください。

据付け

- お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は必ず専門家にご依頼ください。(畳替えやじゅうたんの張り替えなどでストーブを移動させる場合も同じです。)

据付け場所の選定

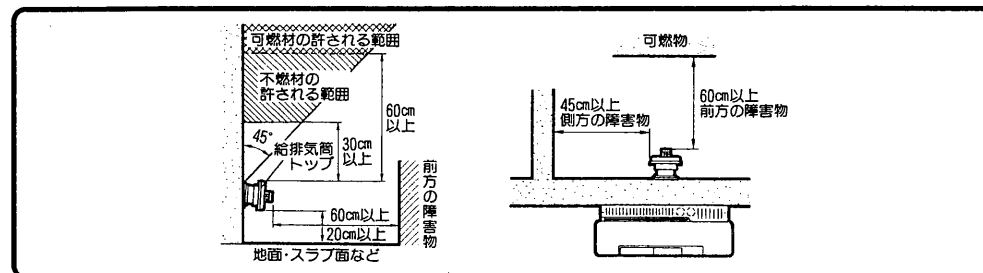
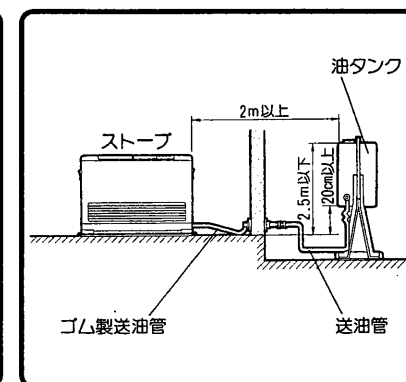
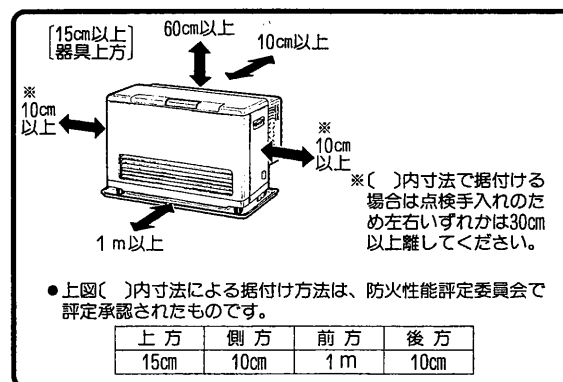
ストーブの据付けは販売店・工事店が火災予防条例などに基づき実施していますが据付け工事完了後、販売店・工事店とともにお客さまご自身でもご確認ください。

- 電源コンセント(単相100V)は専用でお使いください。
- 積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪でふさがれないように注意してください。
  また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがありますので、注意してください。
- 厳寒地域では給排気筒トップにつららがつくことがありますので注意してください。

標準据付け例(ストーブと周囲との距離)

ストーブを据付ける場合は、石油燃焼機器の設置基準(財団法人日本石油燃焼機器保守協会)で決められている下図の可燃物との距離を必ずとってください。
アフターサービス、定期点検、更に給排気回りの点検を行うためにも必要です。

- 上図( )内寸法による据付け方法は、防火性能評定委員会で評定承認されたものです。

上方	側方	前方	後方
15cm	10cm	1m	10cm

据付け つづき

据付け工事後の確認

据付け工事終了後に販売店・工事店とともにお客さまご自身でも下表に基づき点検してください。

点検箇所	点検項目	チェック結果
ストーブ	ストーブ回りは必要な空間がありますか。	
	床面の不安定な場所に据付けてありませんか。	
	ストーブが固定してありますか。	
	電源コードは排気筒に触れていませんか。	
油タンク	油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れはありませんか。	
	油タンクの据付けは基準寸法が守られていますか。	
	ゴム製送油管を屋外で使用していませんか。(屋外は金属配管)	
給排気部品・延長工事	給排気筒トップの周囲は基準寸法が守られていますか。	
	排気筒に給気ホースやカーテンなど、燃えやすいものが接触していませんか。	
	給排気筒の外れ・ゆるみがありませんか。	
	排ガスは屋外へ排気されていますか。	
	給排気筒トップの取付けが屋外に向かって下り勾配になっていますか。	
	給排気筒トップの周囲に障害物(樹木・愛がん動物・雪のふきだまり)はありませんか。	
	給排気筒トップの周囲に危険物(灯油・ガソリン・プロパンガス)はありませんか。	
	トップフードが必ず取付けられていますか。	
	トップフードの給気穴から燃焼用空気が吸い込まれていますか。異物でふさがっていませんか。	
	トップフードの排気穴より排ガスが出ていますか。	
	集合煙突に給排気筒を取付けた工事はされていませんか。	
	床下・天井裏への給排気はしてありませんか。	
	壁埋込みの配管工事はしてありませんか。	
	排気筒の長さは給気ホースに比べ極端に長くなっていませんか。	
	給気ホース・排気筒の長さは3m以内で曲がり数3箇所以内ですか。	
	排気筒の途中に水がたまるような下向き傾斜はありませんか。	
	排気筒の延長立上げ寸法は1.8m以下になっていますか。	
排気筒外れ検知リード	排気筒外れ検知リードは、給排気筒トップに接続されていますか。	
	排気筒外れ検知リードは、排気筒に接触していませんか。	

上記が守られていないと火災・不完全燃焼などをおこすおそれがあり危険です。販売店・工事店に正しい処置をご依頼ください。

試 運 転

試運転は、販売店・工事店と立合いで行ってください。
運転手順、異常時の処置方法について販売店・工事店より説明を受けてください。

運転準備

●油タンクに給油してください。(6ページ参照)
●油タンク及び給油アタッチメントの送油バルブを「開」にします。
●油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れがないか確認してください。
●定油面器のリセットレバーを下へ1回下げてください。元の位置に戻ることを確認します。
●電源プラグをコンセント(単相100V)に確実に差込みます。
●カギを使い操作パネルを開けます。

運　転

■運転開始と停止の手順

個別運転の場合	集中管理システム運転の場合
①運転切換スイッチを「個別」にします。 ②運転スイッチを押して「入」にします。 運転ランプが点灯し、数分後に温風が吹き出します。その状態で約15分間運転して、異常表示等が出ないかを確認してください。 ③室温調節ツマミを回して、好みの設定温度を表示させます。 ④運転スイッチを押して「切」にします。 運転ランプが消灯し、温風はしばらくして自動的に止まります。 ⑤操作パネルを閉めカギをかけます。	①個別運転の①～③を行います。 (個別運転が正常に行われるか確認します。) ②運転切換スイッチを「個別」から「集中」に切換えます。 ③集中管理システムの親機により、正常に運転されるかを確認します。 ④運転スイッチが「入」、運転切換スイッチが「集中」になっているか確認して、操作パネルを閉めカギをかけます。

ご注意!

●室内温度が30℃以上ある場合に試運転するときには室温調節ツマミを右へ360°以上回すと設定温度表示が「H」となり、最大燃焼量で連続運転を行います。
●連続運転は自動的に約10分間で解除されますが、室温調節ツマミを左に回せば解除されます。

■初期運転時の異常現象
●初期運転時、および燃料切れの最初の運転の際にボッボッと音をたてて燃焼することがありますが、故障ではありません。
●温風吹出口から煙やにおいが出ることがありますが、燃焼器に付着した油やほこりが焼けるためで異常ではありません。部屋の換気をしながらご使用ください。

■正常運転の目安
●正常運転の目安として15ページのような現象がないことを確認ください。

群馬製作所　〒307-0492　群馬県新田郡尾島町岩松800